

# MEEET

## Miyako Environmental Education Times

発行: 環境教育プロジェクト

平成26年(2014年)11月1日(土)

第75回の「環境教育ミーティング」は長岡京市の後援をいただき、9月18日(木)に長岡京市立中央公民館と共催で、開催しました。京都竹カフェの鳥居厚志さんには、「竹林の放置、竹への想い、竹検定」と題して話していただきました。

京都に限った話ではありませんが、多くの竹林が放置され、拡大する現象が顕著であること、放置竹林は枯れ稈が目立ち景観的に見苦しいだけでなく、周囲の樹林や耕作地に被害をもたらすため有効利用の復活が望まれていることなどについて話していただきました。

京都竹カフェは、竹の有効利用を進めたいとの思いから同志社大学の藤井教授を中心に2010年に活動を開始した有志のグループです。竹について学ぶ見学会や講演会、竹利用のデモなどを通じて、竹関係者間のネットワークづくりを目指しておられます。竹検定は「学ぶイベント」の一環で実施されています。

### 参加者の感想

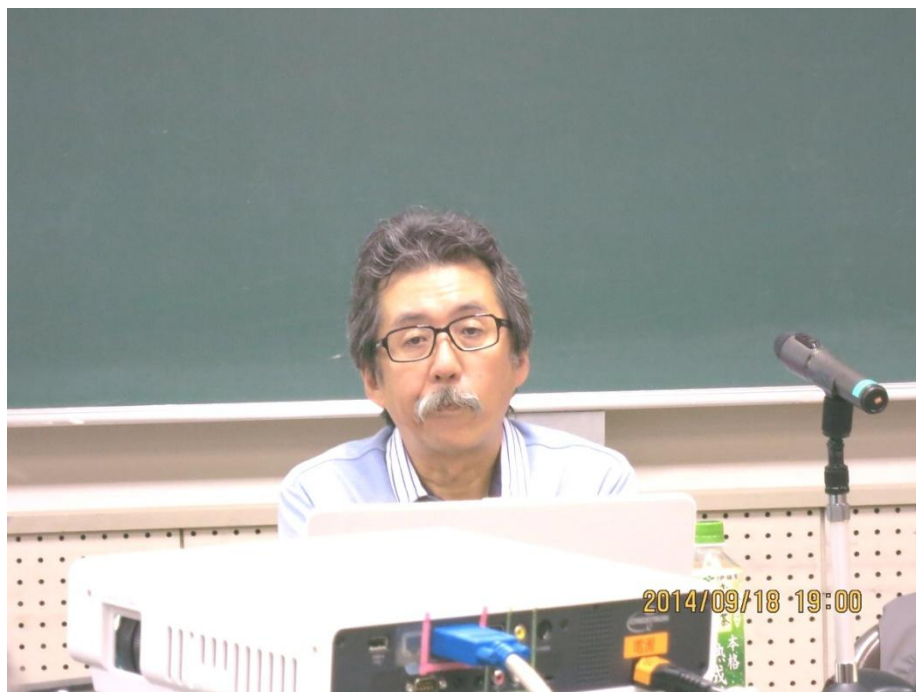
#### 1

お話を聞いて、「竹カフェ」が専門的な知識と経験、ネットワークなど幅広い活動をしておられる団体であることを初めて知りました。ここに行けば竹のことはすべて判ると思いました。

これまで、竹は他の樹木に比べ成長が早いと思っていまし

たが、栄養分を蓄積しておき、一気に成長するため成長が早いように見えるだけで、一年を通じてみれば他の木々とあまり変わりのないことを知りました。しかし、生育面積をどんどん広げていくのを見ていますと、やはり成長力の強さを感じます。

残念ながら今は竹の大きな有効利用はないようですが、エネルギーや資源の少ない日本にとって、その成長力を何とか利用できる事業の開発を期待したいです。



「京都竹カフェ」が放置竹林に心を痛められ、竹林整備だけでなく、竹めぐりツアー、竹林マップ作り、竹の産業素材の研究、竹の高度利用など幅広い活動をされていることに驚きました。

加えて、「竹検定」実施されていることをお聞きして、「長岡京環境検定」の運営等に大変参考になりました。

「竹は巨大な雑草」の言葉に大変興味を持ちました。それでいて「竹は究極の再生可能な資源」として竹の繊維など高度利用を研究されているの大いに期待したいと思いました。

個人的には尺八や篠笛などの音楽などの芸術への応用がもっと出来ないものかと思っています。



- ・ 里山全体の放置，人手離れ
- ・ 樹木との競合での優位性
- ・ 現在も森林に侵入，拡大中

→ (程度はともかく) 今後も拡大

長期的に続くか？

- 自然消滅の例がない
- 林床に他の樹木がない
- 周囲に極相構成種がない
- 当分の間は敵なし？
- てんぐす病のような脅威も・・・

## 1-12. とりあえずの結論

利用こそが、最強の拡大防除策

利用する → 里山に人が出入りする

人が出入りする

→ ついでに、邪魔なタケノコを蹴飛ばす

2014/09/18 19:00

国連 ESD (Education for Sustainable Development)「持続可能な開発のための教育」の 10 年 (2005~2014 年) は、今年がその最後の年です。私たちはもっと ESD を認識し、その後 2013 年 11 月、第 37 回ユネスコ総会において、採択された「ESD に関するグローバル・アクション・プログラム (GAP)」についても学んでいきたいと思っています。なお、GAP は、2014 年第 69 回国連総会へ提出される予定です。